

## 喜びや笑顔をみんなで共有した記念日に

開館7周年を祝う「図書館・歴史資料館まつり」が、3月16日・17日にふくちのちで開かれました。ミニ方城すいとん作りやつぶて投げ体験、ベル・アルモニア赤池によるミニコンサートなど、盛りだくさんの企画に約1,900人が来場。普段静かな館内は、両日とも参加者たちのにぎやかな笑い声に包まれていました。



↑初日の陸上自衛隊飯塚駐屯地音楽部によるコンサートには、約200人が来場。

↓興国寺は3月15日に国の有形文化財に登録されて、この日が初めての観光客。



## 河村光陽の故郷 福智町を歩こう 村童謡の原点を歩き感じた歌の世界

福智町観光ボランティアガイド協会主催の「河村光陽の故郷 福智町を歩こう!」が3月17日に行われました。ふくちのちから出発し、上野の里ふれあい交流館→協奏の庭→興国寺(約6km)のコースを案内。参加者14人は、河村光陽の見た福智町の自然豊かな風景を歌に合わせて歩き、河村童謡の世界を満喫しました。

↓交通遺児社会福祉募金及び能登半島地震の義援金として201,253円を募金。

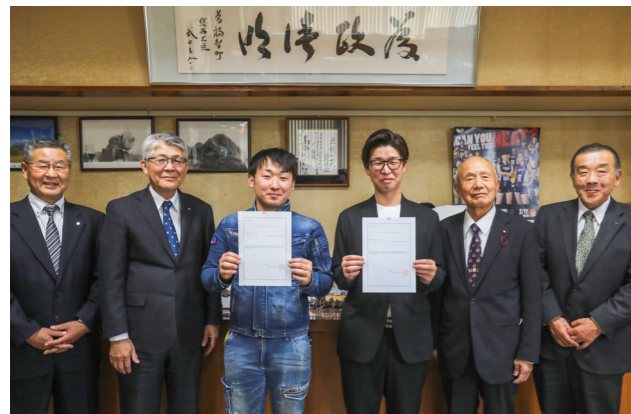


## 第21回チャリティー撮影会 200台のデコトラが煌びやかに輝いた1日

九州アートトラック愛好会エンド★ラスト主催の「第21回チャリティー撮影会」が3月24日に金田ふれあいイベントパークで行われました。約200台の個性豊かなデコトラたちが集結。熊谷博幸会長は「イベントを通じて、地域活性化と運転をするみなさんにハンドルと命の重みを知るきっかけにつながれば」と熱く語りました。

## 後継者不足続く農業の担い手2人が誕生

青年等就農計画認定書の授与式が、3月4日に町長室で行われました。新規就農者である原田裕一さん(生産品目:イチゴ・小松菜・ピーマン)と、倉石優翔さん(生産品目:アスパラガス・ナス・白ネギ)に、直接認定書を手渡した黒土町長。「福智町の農業振興のため、一生懸命励んでほしい」とエールを送りました。



↓認定書を手を目を細める、倉石優翔さん(中央◎)と原田裕一さん(中央◎)。

↓終始、お互い引かない激しい攻防で会場は大盛況。(58-53、58-53、58-53)で判定勝利。



## 地元で掴んだ喜びの勝利

セレスボクシングスポーツジム(千葉県)所属の寺田龍覇選手(神崎)が3月3日に福智町金田体育館で能登半島地震チャリティーボクシング大会のメインイベントで白星を挙げました。6ラウンドを戦い抜き、3度のダウンをとり判定勝利。試合後、寺田さんは「地元で勝つことができてよかった、これからはより一層と力強いボクシングをする」と意気込みました。

## 卒業生128人が感謝を胸に母校を旅立ち

町内4小学校の卒業式が3月14日に行われ、上野小13人、弁城小8人、伊方小44人、市場小63人の児童に卒業証書が手渡されました。6年間を振り返る「呼びかけ」や、最後の校歌斉唱などで、学び舎での思い出をかみしめた卒業生たち。家族や恩師、友達への感謝を胸に、次なるステージへと歩みを進めていました。



↑新しい制服に身を包み、思い出いっぱいの校舎を後にした卒業生たち。(上野小)

↓(株)平成筑豊鉄道 河合賢一社長と黒銀のデザインを務めた浦島健多さん



## 黒銀 KUROGIN サイクルトレイン誕生祭 初のサイクルトレイン「黒銀」が運行開始

「黒銀 KUROGIN サイクルトレイン誕生祭」が3月20日に田川郡赤村 油須原駅で開かれました。筑豊地区発展の原動力だった石炭、中でも高純度で表面がキラキラと輝く無煙炭をイメージし、黒を基調とした車両。これからサイクルトレインとして運行し、沿線の新たな発展の原動力として、人と地域を繋いでいきます。